

吉和鳴滝キッズの生き生き学習！

尾道市立吉和小学校 対象学年（5年）

体験活動の種類 社会奉仕 自然 勤労生産 文化

体験活動場所 安芸高田少年自然の家

【学校紹介】

○ 本校は尾道市の西の端に位置しており、瀬戸内海の穏やかな海や、瀬戸内海国立公園鳴滝山など豊かな自然に囲まれている。学校教育目標「よく学び、心豊かで、元気な吉和っ子の育成」の実現に向け、知・徳・体のバランスのとれた児童の育成を目指している。「山・海・島」体験活動では、9月27日（月）～9月30日（木）の4日間、5年生60名が安芸高田市で、野外炊飯や星空観察、農業体験、神楽体験、登山・ハイキング、キャンプファイヤーなどの体験活動を行った。

○校長名：石井純子

○児童数（学級数）：320名（14学級）

○所在地：尾道市東元町26番3号

○電話番号：0848-23-3941

○URL：<http://www.onomichi.ed.jp/yoshiwa-e/>



学校外観

【体験活動のねらい】

- 家族から離れた3泊4日の集団生活や様々な自然・社会体験を通して、今までの自分を振り返らせ、長期宿泊体験で学んだことを自分の生活に生かしていこうとする意欲を育てる。
- 適切な方法を選択し、情報を収集したり、分かりやすくまとめたり、表現したりする活動を通して、情報活用能力や表現力を育てる。
- 調べたり体験したりしたことを活用し、自分の生活をよりよくしていこうとする意欲を育てる。

【指導計画】

実施時期	活動内容	実施時間数	教育課程上の位置づけ	実施場所	指導者
第1学期	○ふるさと吉和や体験活動で訪れる吉田町について、調べ学習に取り組み、それぞれのよさや特徴に気づく。	22	総合的な学習の時間	学校	担任
	○自分の願いを正確に伝えることを意識し、依頼文を作成する。また、受け入れに対する感謝の気持ちを文章で表現する。	2	国語	学校	担任
	○集団生活に必要な友達と協力し、助け合おうとする心を育てる。	1	道徳	学校	担任
	○集団生活に必要な自律心を育成する。	1	道徳	学校	担任
第2学期 (9月上旬～中旬)	○宿泊活動での体験をより充実させるため、学習テーマにかかわる事前学習を行う。	10	総合的な学習の時間	学校	担任
	○プレ野外炊飯として、カレーライス、サラダ作りをする。	2	家庭	学校	家庭科担当 教諭
	○宿泊活動の心構えについて話し合うことを通して、安全で楽しく、ルールを守って過ごそうとする意識を高める。	1	学級活動	学校	担任

9月	○宿泊体験活動（3泊4日）				
	・野外炊飯	2	家庭	安芸高田少年自然の家	担任 自然の家職員 桑田の庄職員 横田神楽団団員 安芸高田 子ども会連合会
	・農業体験・神楽体験	6	総合的な学習の時間	桑田の庄・横田神楽団	
	・登山・ハイキング （川の流れ観察）	2	理科	安芸高田市吉田町内	
	・登山・ハイキング （体力を高める運動）	2	体育	安芸高田市吉田町内	
	・登山・ハイキングコースの清掃 活動	1	総合的な学習の時間	安芸高田市吉田町内	
・家族への手紙	1	国語	安芸高田少年自然の家		
	・メモリーフレーム作り	3	図画工作	安芸高田少年自然の家	
10月	○自分の思いを正確に伝えることを意識し、お礼の手紙を作成する。また、思い出文集にまとめる。	4	国語	学校	担任
	○宿泊体験を通して学んだ家族の大切さを、資料と重ね合わせることで再確認する。	1	道徳	学校	担任
10月 ～ 11月	○学習テーマに沿って調べたことや体験したことをまとめ、成果発表会の準備をする。	14	総合的な学習の時間	学校	担任
	○成果発表会で歌う歌の練習をする。	2	音楽	学校	音楽担当教諭
	○成果発表会で使用する小道具や紙芝居などを作成する。	2	図画工作	学校	担任
11月	○成果発表会	2	総合的な学習の時間	学校	担任 音楽担当教諭
第3学期	○宿泊体験やその前後の学習を通して学んだ郷土のよさを、資料と重ね合わせることで再確認する。	1	道徳	学校	担任
	○ふるさと吉和の10年後、20年後の未来について考え、保護者や地域に発信する。	19	総合的な学習の時間	学校	担任
	○体験活動をふくめた1年間全体の振り返りをする。	1	学級活動	学校	担任

【体験活動の概要】

○神楽体験（文化や芸能、交流活動）

[活動の概要]

安芸高田市の伝統芸能である神楽について、地域の神楽団の方からお話をうかがった。その後、実際に「子ども神楽」を鑑賞する。

[効果を高めるために留意した指導のポイント]

インターネットや本を活用して、神楽について事前に学習した。より明確な視点をもって神楽について学習できるように、自分達の地域の伝統芸能である「吉和太鼓踊り」と比較させながら学習を進めた。



子ども神楽の鑑賞

○地域清掃活動（奉仕活動，自然）

〔活動の概要〕

安芸高田市内の登山・ハイキングコース（12km）を歩きながら，清掃活動を行った。

〔効果をもとめるために留意した指導のポイント〕

児童が主体的に活動できるように，4日間過ごした安芸高田市のために自分達にできることはないか考えさせ，児童の意見をもとに活動を設定した。登山・ハイキングと並行して行うことで，安芸高田市内の自然に親しみ，友達と楽しみながら清掃活動ができるようにした。活動の意義やねらいを明確にして，児童に目的意識をもって活動に取り組ませた。事前に勤労・奉仕の道徳の授業を行った。



清掃ボランティア

○農業体験（勤労生産，自然）

〔活動の概要〕

安芸高田市内の農家で，野菜や米の収穫を行った。収穫した野菜は昼食の食材にした。また，農業体験の間の時間には，田んぼで遊んだり，近くの草むらで植物や昆虫などの観察をしたりして，自然と触れ合った。

〔効果をもとめるために留意した指導のポイント〕

社会科の学習を通して，米づくりや野菜づくり，日本の農業の現状について学習した。また，インターネットを活用して，安芸高田市の自然や農業の様子について調べ学習を行った。



稲刈り

【体験活動の効果をもとめる事後学習】

○道徳の時間

道徳の時間に「郷土愛」をテーマに学習する。体験活動で学習した神楽や，総合的な学習な時間で学習した郷土の伝統芸能との関連を図りながら，総合単元的に道徳の時間を設定した。



道徳の授業

○「山・海・島」体験活動成果発表会

総合的な学習の時間に，「山・海・島」体験活動成果発表会を行う。8つのグループに分かれて，それぞれのグループが体験活動の内容や，体験活動を通して学んだことを発表した。

ここでは，県指標を用いた児童調査，保護者調査の結果も紹介した。児童は，これらの調査結果と自分たちのまとめを比べることで，改めて自分を見つめ直し，自己の成長を実感することができたと考える。



成果発表会

【交流先や施設等との連携】

〔事前〕

- 交流する相手や施設などについて事前学習を行った。
- 児童の実態や活動のねらいを交流相手に事前に伝え、打ち合わせを十分に行った。

〔活動中〕

- 活動中は、分からないことや困ったことがあったらすぐに周りの教師に頼るのではなく、できるだけ交流してくださる方へ質問するよう児童に意識させた。(教師が前に出ない。)
- 交流相手としっかりと関わることができるような場の設定をした。(質問タイム、交流タイム、振り返りなど)

〔事後〕

- 体験活動後は、礼状を書き、交流先の方や施設の方と継続して交流できるようにした。

【評価の工夫】

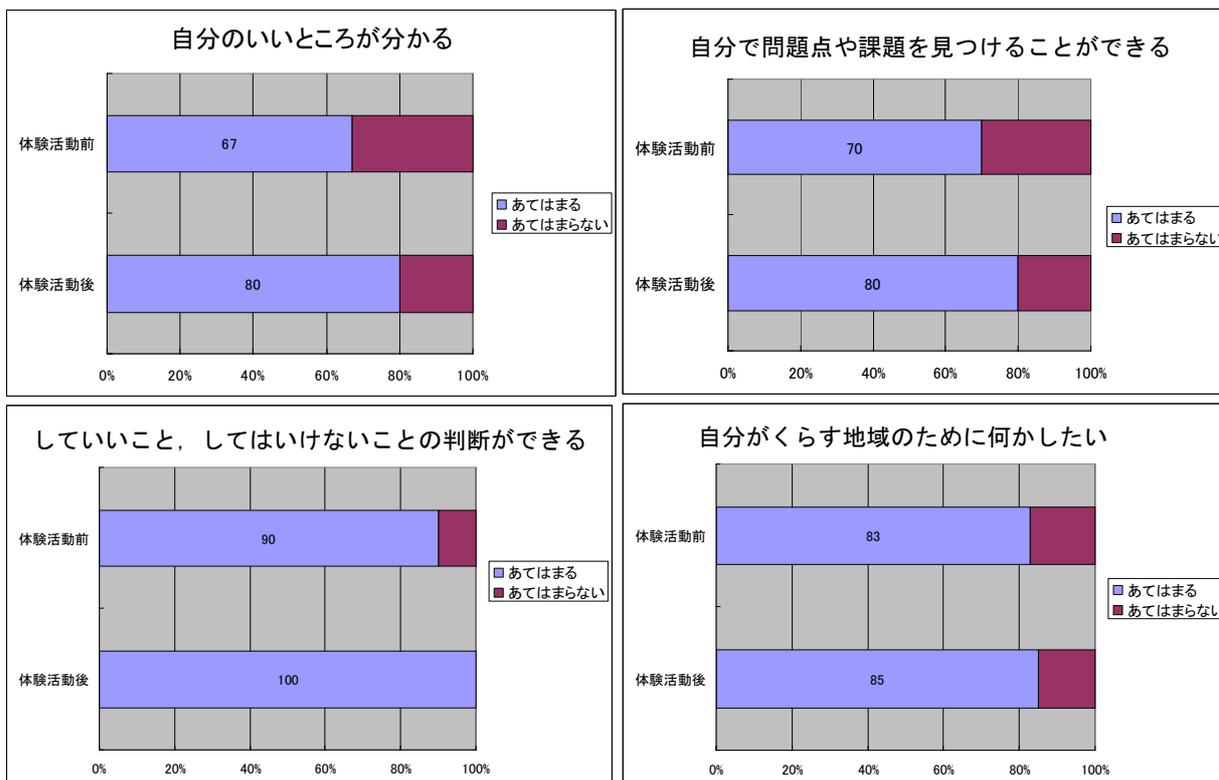
- 振り返りの視点を明確にして、振り返りを行わせた。(活動自体の振り返り、行動の振り返りなど)
- 振り返りを行う際は、まずはグループで振り返りをしたあと、個人の振り返りをさせた。
- 一つ一つの活動に自分なりの目標をもって臨ませた。

【安全面の配慮事項】

- 事前に施設や交流先、活動場所を下見し、交流相手と実際に会い、安全確保について打ち合わせを行った。
- 体験活動のしおりの中に、安全面に関するページを設け、事前に指導を行った。
- 下見をした際に、危険な場所や道具などについて、写真を撮影しておき、事前指導の際に写真を提示しながら安全面について話し合わせた。

【体験活動の成果と課題】

宿泊体験活動の事前・事後に実施した児童アンケートの結果（一部）



〔成果〕

- 自己肯定感，課題発見力，規範意識，郷土に対する愛着の念などが高まった。
- 体験活動や成果発表会を通して，児童の表現力や，人と関わり合う力が高まった。
- 何事にも意欲的に取り組むようになった。
- 保護者の方からも，体験活動に対する肯定的な意見が多く寄せられた。
(多くの保護者が児童の成長を実感できていた。)
- 成果発表会を2学期の総合的な学習の時間のゴールとして位置付け，実施した。保護者や地域，本校教諭や他学年児童に対して発表する場を設定することで，児童は意欲的に学習に取り組むことができた。

〔課題〕

- 体験活動後に高まっている児童の意識の高まりを，どのように継続させていくかが課題である。また，成果発表終了後も，体験活動での学習や経験を生かせるような学習単元づくりが必要である。
- 本年度の体験活動でお世話になった施設や講師，団体などと，来年度も引き続き交流を行うことで，学習効果が更に高まるのではないかと考えられる。



成果発表会